

第1回専門領域推進部内部障がい理学療法領域症例検討会 活動報告書

日時：令和5年5月17日（木） 18:30～20:00

形式：オンライン開催（Zoom）

内容：症例検討

1. レートコントロールと今後の治療方針に併せ対応した心不全症例

発表者：枝信孝（日本海総合病院） 座長：黒坂浩平（県立新庄病院）

2. 特発性肺線維症でサルコペニアを認めた症例

発表者：海老名陽介（公立置賜長井病院） 座長：林知明（日本海総合病院）

参加人数：第一席；43名 第二席；42名

内容の詳細

第一席：枝信孝氏より、治療をドロップアウトされた患者に対して、レートコントロールと治療方針に併せた心不全症例について報告いただいた。レートコントロール不良にて、リハビリ介入に難渋した症例の内容であった。参加者より多職種連携の方法やどのように情報共有を行っていたかなどの質問があった。臨床において、医師との連携の問題を抱えている病院があり、今後検討が必要であると感じた。また症例の歩容や起立動作に介入していくことで心負荷への影響を軽減できるのではないかと、評価・治療をどのように行ったのか、体重管理について等、多くの質問や助言があった。心機能が安定し難い症例に対して、どのように介入したらよいか、活発な議論がなされた。

第二席：海老名陽介氏より、特発性肺線維症でサルコペニアを認めた症例について報告いただいた。栄養状態の不良もあり、呼吸機能・身体機能の低下がみられる症例であった。特にサルコペニアを呈しているため、体組成計（In body）の評価や使い方、多職種連携にどのようにデータを使用したらよいかについて質問や助言があった。更に合併症や既往歴から考えられる食欲不振についての考え方、筋力訓練時の負荷量設定についても議論が及んだ。最後にADLの視点から食事姿勢の影響についての意見もあり、幅広い観点から討議ができたのではないかと感じる。

今年度初回の症例検討会であったが、発表者より提示された検討内容について、若い参加者から比較的経験のある参加者まで幅広く質問や助言があり、座長の進行により更に一歩踏み込んだ内容にまで検討が及び、実り多い時間であった。今後もこのような機会を通して、会員の教育・研鑽の一助となるよう取り組んでいきたい。

文責 荒井珠美